

水害時の行動計画を立てましょう。

水害は地震とは違い事前に予測できる災害です。

避難の判断に必要な情報について知り、いつ・どの情報をきっかけに避難を始めるか、事前に決めておきましょう。

浸水したときの注意点

道路脇の側溝や段差、開いたマンホールのふたなどは、浸水すると見えなくなってしまう。冠水している道を通っての避難は、できるだけやめましょう。



運動靴をはく

長靴は水が入ってきて歩きにくく危険。裸足も禁物。ひもでしめることができ脱げにくい運動靴をはきましょう。

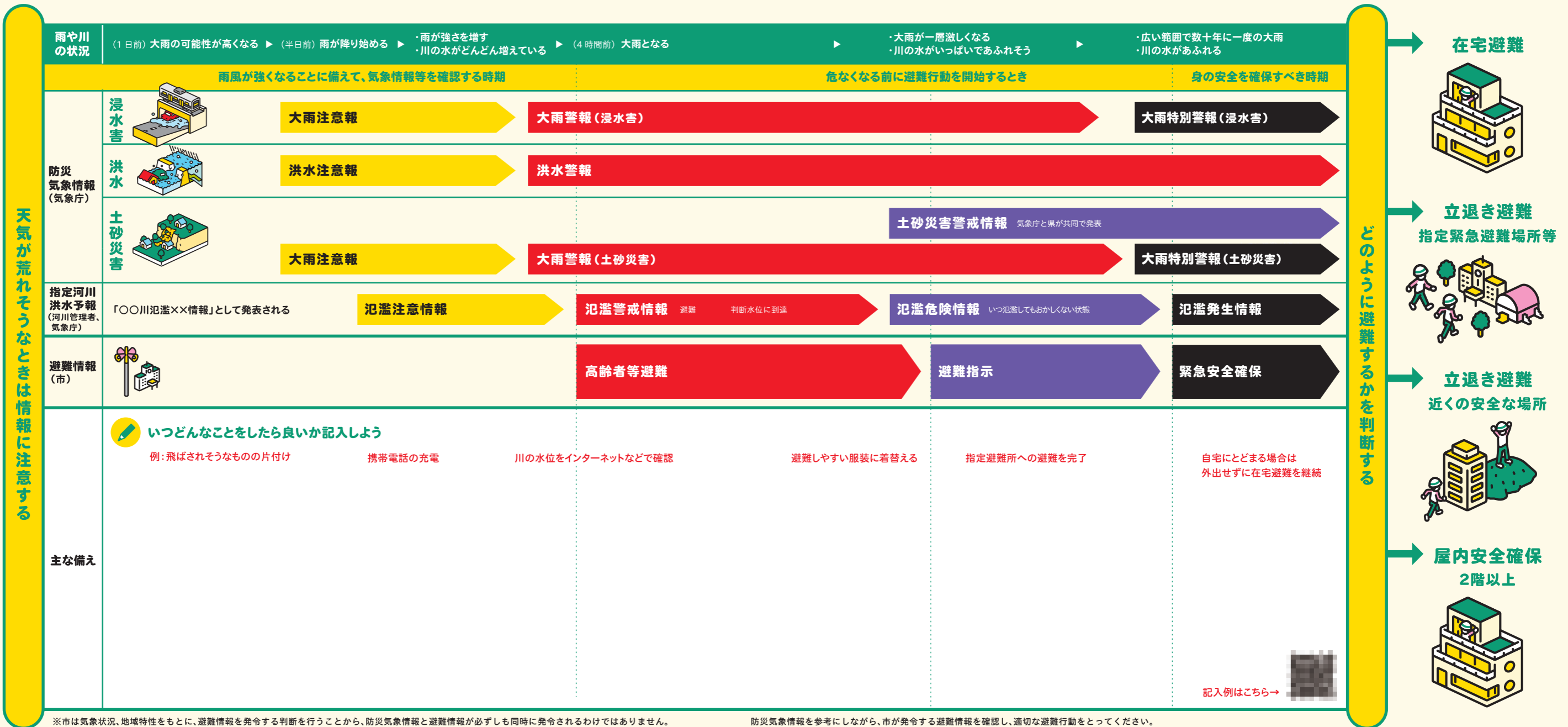


和光市版
マイ・
タイム
ライン



どのような情報を集めて、何をきっかけに避難するか計画を立てましょう。

避難する



※市は気象状況、地域特性をもとに、避難情報を発令する判断を行うことから、防災気象情報と避難情報が必ずしも同時に発令されるわけではありません。

防災気象情報を参考にしながら、市が発令する避難情報を確認し、適切な避難行動をとってください。

いつ避難するかの判断材料に

市が出す避難情報

警戒レベル3: 高齢者等避難

危険な場所から高齢者等は避難!

高齢の方、障害のある方、乳幼児などその支援者は避難を開始しましょう。

その他の方は、いつでも避難できるよう準備してください。

避難の準備を整え「防災気象情報」や「水位情報」等に注意し、危険だと思ったら早めに避難をしてください。

警戒レベル4: 避難指示

危険な場所から全員避難!

P21のチェックリストで想定した避難場所で安全を確保しましょう。

避難場所への移動が危険な場合は「近くの安全な場所」が「自宅内のより安全な場所」へ避難を。

想定される浸水が浅い場合、建物の上階への避難や、高層階に留まる屋内安全確保も有効です。

※急激な水位の上昇のおそれがある川沿いや、土砂災害特別警戒区域等の居住者の方は早めの避難を。

警戒レベル5: 緊急安全確保

命を守るための最善の行動をとってください。

既に災害が発生している状況です。